

## 令和7年度 主題研究（学びチャレンジリーディングスクール事業） 計画案

研究主任

1. 研究主題 協働的な学びの実現を目指す「考えを深める」授業の在り方
2. 研究仮説 学級活動の時間の話し合い活動を通し、「よりよく話し合うことができる力」を児童に身に付けさせるとともに、他の教科等で話し合う活動の工夫をすれば、「考えを深める」授業を実践でき、協働的な学びを実現できるであろう。
3. 検証方法 児童・教員に対し、「研究主題に関するアンケート調査」を実施し、調査結果から研究の成果を検証する。

## (1) 児童アンケート

## ◆学級会のことに関するアンケート調査

1. 何について話し合っているのか分かる。(提案理由を意識している)
2. 時間を意識して話し合うことができる。
3. 友達の意見を進んで発表できる。
4. 友達の意見の理由を考えながら、聞くことができる。
5. 友達の意見を聞いて、比べたり、付け加えたり、新しい意見を考えたりすることができる。

## ◆学級会以外の授業のことに関するアンケート調査

1. 話し合いのとき、何について話し合っているのか分かる。
2. 話し合いのとき、時間を意識して話し合うことができる。
3. 話し合いのとき、自分の意見を進んで発表できる。
4. 話し合いのとき、友達の意見の理由を考えながら、聞くことができる。
5. 話し合うことを通して、考えや答えを見つけたり確かめたりすることができる。

## (2) 教員アンケート

1. 話し合いのとき、児童が何について話し合っているのかわかるようにしている。
2. 話し合いのとき、児童が時間を意識して話し合うことができるようにしている。
3. 話し合いのとき、児童が自分の意見を進んで発表できるようにしている。
4. 話し合いのとき、児童が友達の意見の理由を考えながら、聞くことができるようにしている。
5. 児童が自分の考えやそのわけをノートやプリントに書くことができるようにしている。
6. 児童が学習の最後に何を学習したか振り返ることができるようにしている。
7. 児童が自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにしている。
8. 教科指導のとき、どの点について取り入れていますか。
①自分の考えをもって、話し合いに臨むための事前準備
②「出し合う」「比べ合う」「まとめる」の話し合いの流れの活用
③板書の整理や短冊の活用
④話し合い活動の時間の確保
⑤どれもあまり活用できていない

#### 4. 主題設定の理由

- (1) 学びチャレンジリーディングスクール第1期の取組で話し合う活動は、“設定”するのみにとどまっていて、学校全体で具体的な共通の取組をすることができなかった。
- (2) 第1期のアンケート調査の結果から、「書く活動」「振り返りの活動」と比べると、話し合う活動に関する項目の得点がやや低かった。
- (3) 学級活動において、「問題の発見・確認」→「解決方法等の話し合い」→「解決方法の決定」→「決めたことの実践」→「振り返り」の一連の活動を繰り返すことで、児童一人一人が進んで自分の考えを発表できるようになることや、学級が互いの考えを尊重し、みんなで一緒になって問題を解決できるようになることが考えられる。児童一人一人に自分の考えを伝える力が身に付き、互いを尊重して認め合う支持的な学級の風土が醸成されれば、様々な教科等での話し合い活動の活性化につながり、学習意欲や学力の向上が実現できると考える。

○ 第1期学びチャレンジリーディングスクール事業の本校の取組

- ・ 書く活動・話し合う活動の設定
- ・ 構造的な板書づくり
- ・ 振り返りの時間の設定・視点の明確化

○ 研究の成果と課題（令和4年度実施アンケート調査の結果）

	質問	平均点		
		6月	12月	変化
A	話し合いでは、自分の考えやそのわけを伝えることができる。	3.1	3.1	±0.0
B	話し合いでは、みんなの考えをまとめることができる。	2.8	2.9	+0.1
C	話し合いでは、友達とよりよい考えを生み出すことができる。	3.0	3.1	+0.1
D	自分の考えやそのわけをノートに書くことができる。	3.3	3.3	±0.0
E	学習の最後に黒板に書かれていることを見て何を学習したか振り返ることができる。	3.3	3.2	-0.1
F	学習の最後に自分の言葉でまとめや振り返りを書くことができる。	3.2	3.3	+0.1
G	自分ができるようになったことを振り返りとしてノートに書くことができる。	3.3	3.3	±0.0
H	自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	3.0	3.0	±0.0
I	「自分は成長している」「できることが増えている」と思う。	3.5	3.5	±0.0

※ 「とても当てはまる」を4点、「少し当てはまる」を3点、「あまり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として平均点を計算

## 5. 学級活動の時間を中心とした話し合い活動の充実の利点

### (1) 「考えを深める」話し合いを実現しやすい

学級活動では、自分たちの生活に直結していること（お楽しみ集会の内容等）を話し合い、話し合ったことを実践するので、児童一人一人が本気で考え、自分事として捉えて意見を言う。また、決定する際には、「私が…」ではなく、「学級としては…」という思いで話し合うので、「考えを深める」話し合いを実現しやすい。児童一人一人が話し合い活動に対する達成感・充実感を得やすく、「他の教科等でも話し合いたい」という気持ちをもつことにつながる。

### (2) 学級づくりの基盤となる

学級活動での話し合い活動を充実させることで、児童一人一人が安心して自分の思いを話せる学級の雰囲気や支持的風土の形成ができる。

## 6. 年次計画

### (1) 1年次

学級活動の時間を中心とした話し合い活動の充実と話し合う力の育成

### (2) 2年次

学級活動での話し合う力の向上とともに教科等での話し合う活動の工夫

### (3) 3年次（本年度）

お互いの思いを生かした考えを深める話し合う活動の実現



児童の発言から話し合いの全体の流れを捉えたり，一人一人の児童の考えを注意深く聞き取ることで，話し合いの状況を適切に把握し，機会を捉えて次のような指導助言をします。

話し合いがそれたとき →「提案理由やめあてをもう一度確かめてみましょう」  
意見が対立したとき →「それぞれの意見のちがいは，どんなところかな」  
「〇〇さんはどうして，この意見がよいと考えるのかな」  
発言が偏ったとき →「〇〇という意見についてはどう思いますか」  
反対意見ばかりが出るとき →「よりよくするためにはどうすればいいか考えよう」

### 不適切な例

「よい考えですね」などのように，児童の話し合いの内容を方向付ける助言は，主体性を妨げることにつながるため行わないようにし，児童を中心にした話し合いにすることを大切にします。

### ① 前回の学級会と比べて，よかったことを称賛する。

初めに，みんなで話し合っ，学級として合意形成を図ることができたことを称賛します。

そして，前回の学級会と比べてよかったことを伝えます。

### ② 次回の学級会に向けての課題について指導する。

さらによりよい話し合い活動にするために，発言の仕方や話し合いの進め方などの課題について指導します。

### ③ 司会グループや学級全体へのねぎらいで実践意欲を高める。

司会グループに対しては，計画から話し合いまでの取組に対してがんばったことを認め，称賛します。学級全体に対しても提案者の思いを大切にしながら話し合ったことを認め，実践への意欲を高めるようにします。

「みんなで，よりよい学級・学校生活をつくる特別活動」(P 56)

(3) 話し合いの振り返りの仕方の工夫

## 1 学級会ノートの活用

自分や友達のよさに気づき、自分が成長したことに自信をもつことができるようになります。自分のがんばりについてチェック項目をもとに自己評価するとともに、話し合いで学んだことや実践に向けての期待感などを言葉で表します。その際、次のような視点で振り返ることが大切です。

- 自分や友達のよかったところやがんばったことは何か。
- いろいろな意見のよさを見つけたり、比べたり、生かし合ったりすることができたか。
- 提案理由やめあてを踏まえて話し合い、折り合いを付けて合意形成することができたか。
- 前回の学級会と比べてよかった点や、次回に向けての改善点は何か。
- 決まったことに対して楽しみなことやこれから自分がかんばりたいことは何か。

学級会ノート	
◎○△で評価しよう	
提案理由によって話し合うことができたか。	○
友達の意見のよいところを考えながら聞くことができたか。	○
自分の意見を進んで発表できたか。	◎
決まったことや自分がこれから何をしたらよいか分かりましたか。	◎
学級会のふりかえり	
提案理由にある「認め合う工夫」を考えることができました。○○さんの意見のよいところを合わせて決めることができたので、本番の集会がとても楽しみです。	

## 2 振り返りカードの活用

振り返りカードを使って、話し合いの振り返りだけではなく、実践まで振り返ることができるようにする方法もあります。よりよい学級会に向けて、次のようなことに留意して振り返りを行うことが大切です。

### 話し合いの振り返りのポイント

- 自分や友達のよさを互いに確認し、伝え合うこと
  - 目標が達成できたかどうかを確認すること※
  - 次の学級会で改善できること※
  - 次の学級会に向けての目標を設定すること
- (※は個人と学級双方の視点から)

1学期がんばったね会をしよう	
ふりかえりカード	
◎○△で評価しよう	
提案理由の思いを考えながら集会ができましたか。	◎
自分の役割に責任をもって取り組むことができたか。	◎
友達のよいところやがんばったことを見つけられましたか。	◎
実践のふりかえり	
1学期のがんばったことを、劇で紹介しながらみんなと楽しみました。台本づくりでは、国語で勉強したことが役に立ちました。2学期も学級のみんなと仲よくがんばりたいと思いました。	

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動」(P 57)

## [3年次の取組]

### (1)3年次の取組

#### 『お互いの思いを生かした考えを深める話し合う活動の実現』

##### ○お互いの思いを生かすには

- ・相手の思いや考えを汲み取り、協働的な学びを実現するための学級の風土を醸成する

学級活動を中心として、児童が自発的・自治的な活動により、学級や学校におけるよりよい生活や人間関係をつくとともに、お互いを尊重し、認め合う支持的な学級の風土を醸成することでお互いの思いを生かした話し合い活動ができるようにする。

##### ○考えを深めるには

- ・学級会における一連の流れを積み重ねる

学級活動において、「問題の発見・確認」→「解決方法等の話し合い」→「解決方法の決定」→「決めたことの実践」→「振り返り」の一連の活動を繰り返す中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的に生かし、知識・技能などを集団及び個人の問題の解決に活用していくことで児童が考えを深めることができるようにする。

- ・よりよく話し合うことができる力を高める

学級会において、議題について一人一人の児童が自分事として考えることができるようにする。その上で自分の考えや理由を出し合ったり、多様な考え方や価値観を共有したりしながら、学級としてみんなが納得できるような解決策を見付け、合意形成を図る経験を重ねることで、児童のよりよく話し合うことができる力を高める。

### (2)具体的な手立て

#### 【学級会を通して】

##### ◎提案理由の明確化

- ・提案理由が学級全体のものになるように、児童全員が分かる言葉や表現で詳しく記述する。
- ・児童が本気になって、問題を解決したい、取り組みたいという提案理由になるようにする。

##### ◎理由を繋げる話し合い

- ・相手の発言をしっかりと聞き、相手の意見に対しての自分の考えを発言できるようにする。
- ・児童一人一人の意見とその理由が単発で出てくる話し合いではなく、一つの事柄や相手の意見の理由を繋ぎながら、意見を出し合い、より深い話し合いを目指す。
- ・『打ち上げ花火の話し合い』から『キャッチボールの話し合い』へ意識の変換を図る。

##### ◎板書の整理

- ・賛成意見や反対意見を色分けするだけでなく、書く内容をまとめたり、整理したりして書く。
- ・似ている意見の短冊同士を近づけたり、異なる意見を区別したりするなどの並び替えをする。

##### ◎反対意見・少数意見の扱い方

- ・反対や少数の意見を出した児童の思いを聞いたり、意見の中の生かせそうなところを探したりすることを意識するようにする。

##### ◎指導の目安の活用

- ・話し合いの技能向上に向けた学年ごとの段階的到達目標一覧を作成し、6年間を見通した積み重ねができるようにする。

※ 実践を積み重ねることが肝要である。研究授業は年間の通過点と考え、年間を通した学級経営のためにも、学年末の学級の姿をイメージし、そこを目指して、学級活動を充実させる。

【教科等の学習を通して】

学級活動で築いた「話し合い活動の積み重ね」「支持的な学級風土」「よりよく話し合うことができる力」を生かし、教科等での話し合う活動を工夫する。下記のような学級会での話し合いの工夫を教科等での話し合う活動にも生かす。

- ・ 一人一人の児童が自分の考えをもって話し合いに臨めるようにするための事前の活動
- ・ 「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる」の話し合いの流れ
- ・ 板書の整理の仕方や短冊の活用
- ・ 話し合い活動の時間の確保

8. 本年度の計画

(1) 研修予定

4月 3日 (木)	○ 主題研修「研究内容・計画について」	○ ○ ○ 週1回の学級活動実施（少なくとも年間10回以上の学級会実施） 教科等での話し合う活動の工夫の実践 まとめ作成（公開授業・A研授業・C研授業が終わった学級から）
4月 4日 (金)	○ 主題研修「学級会の進め方」 ・ 新任・転任の教員と希望教員での研修	
4月 7日 (月)	○ 公開授業・A研授業・C研授業の日程と授業者決定	
4月14日 (月) }	○ 学級活動年間計画作成（全学年）	
4月18日 (金)		
5月21日 (水)	○ A研授業（5年生提案授業）	
5月26日 (月) }	○ アンケート調査（全児童・教員） ○ 主題研究のまとめの提案	
5月30日 (金)		
6月18日 (水)	○ A研授業（3年）	
9月10日 (水)	○ A研授業（1年）	
10月7日 (火) ・ 8日 (水)	○ 自然教室（5年生）	
10月20日 (月) }	○ 運動会練習期間 ○ 運動会	
11月1日 (土)		
11月18日 (火) ・ 19日 (水)	○ 修学旅行（6年生）	
12月5日 (金)	○ 学チャレ公開授業（3学級） ・ 文部科学省 教科調査官 和久井先生来校	
12月15日 (月)	○ アンケート調査（全児童・教員）	
12月中	○ 各学級のまとめ最終締切	
1月 8日 (木) }	○ 学校のまとめ作成	
1月23日 (金)		
1月28日 (水)	○ 主題研修「まとめ」	

※ 研修のみだけでなく、月に一度、学級会について「困っていること」や「うまくいったこと」などを共有する場を設定し、年間を通して意識した継続的な実践を行えるようにする。

(2) 研究授業について

① 授業者 各学年1名が学チャレ公開授業もしくはA研授業を行い、もう1名がC研授業を行う。

② 日時・参観者

	日時	参観者
学チャレ公開授業 (3学級)	12月5日(金) 5校時	本校の全教員 和久井先生(文部科学省 教科調査官) 担当指導主事 他校の教員 市外の教員
A研授業	5月21日(水) 5校時 6月18日(水) 5校時 9月10日(水) 5校時	本校の全教員 担当指導主事 外部講師
C研授業	別途調整	校長 教頭 教務主任 同学年学級担任 本校の参観希望者

③ 指導案

指定の「【学チャレ用③】学習指導案 基本形式(学級活動(1)版)」を使用する。

④ 協議会

授業実施日の児童下校後に参観者で行う。

⑤ 授業・協議会の係

	授業者	授業TC記録	授業写真撮影	授業ビデオ撮影	協議会司会	協議会記録
学チャレ公開授業	授業者が決まり次第調整					
A研授業	1年担任	7年	6年担任	6年担任	5年担任	特支担任
	2年担任	2年担任	1年担任	7年	6年担任	6年担任
	3年担任	3年担任	2年担任	2年担任	1年担任	7年
	4年担任	4年担任	3年担任	3年担任	2年担任	2年担任
	5年担任	特支担任	4年担任	4年担任	3年担任	3年担任
	6年担任	6年担任	5年担任	特支担任	4年担任	4年担任
C研授業	2年担任	2年担任	教務主任・7年			
	3年担任	3年担任				
	4年担任	4年担任				
	6年担任	6年担任				

## 9. まとめ

公開授業・A研授業・C研授業の指導案に「話し合いの実際」「実践の様子」「教科等での話し合う活動の様子」「成果と課題」を書き加える。【詳細は別途提案】

話し合いの実際	<ul style="list-style-type: none"><li>公開授業・A研授業・C研授業での話し合いの実際の様子について記述する。</li></ul>
実践の様子	<ul style="list-style-type: none"><li>公開授業・A研授業・C研授業で話し合っただけ決めたことの実践の様子について記述する。</li><li>写真や児童の学級会ノートのコピー等を添付する。</li></ul>
教科等での話し合う活動の様子	<ul style="list-style-type: none"><li>教科等での話し合う活動の様子について、主題研究の取組によってもたらされた変化等を記述する。(12月にまとめる。)</li></ul>
年間を通した成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>学級全体の変化について記述する。</li><li>児童の変容が分かる資料があれば添付する。</li></ul>